

仕事をお探しの障がい者と企業の採用担当者との面接会が開催されます！

平成29年度 鹿屋・大隅地区 障害者就職面接会

日時

9月29日(金)

13:00～16:00

受付12:30～、面接13:30～

会場

ホテルさつき苑

対象者

就職を希望している障がい者

※事前にハローワークかのかのやでの求職登録が必要

準備する物

- ①障がいを確認できるもの(障がい者手帳など)
- ②写真を貼った履歴書
- ③ハローワークかのかのやに置いてある応募票(コピー可)

参加方法

当日、面接会場に直接来場

※平成30年3月高校卒業予定者については、正式応募前の「面談会」となり、正式応募は平成30年1月以降となります。

問 ハローワークかのかのや
☎0994-42-4135



おおすみ障害者就業・生活支援センターのマスコットキャラクター「マッチングま」。障がい者と企業をマッチングする意味が込められている。

おおすみ障害者就業・生活支援センターとは？
センターは、大隅4市5町(鹿屋市・垂水市・曾於市・志布志市・大崎町・東串良町・錦江町・南大隅町・肝付町)を対象圏域とし、就職を希望している障がいや病気になる人、あるいは在職中の障がい者が抱える課題に応じて、雇用及び福祉の関係機関との連携のもと、就業面・生活面の一体的な支援を行っています。

就職と生活を支援
センターは、本人の得意なことや障がい特性に合わせた仕事を一緒に探します。面接に同行したり、職場見学・体験も実施しており、雇用が決まった後も、必要に応じて、仕事を続けるための支援を行っています。また、健康管理や経済面に関するアドバイスなど、生活に係る支援も行っています。



センターの定着支援



おおすみ障害者就業・生活支援センター就業支援相談員
宮内 奈緒子さん

☎0994-35-0811
(鹿屋市社会福祉会館内)

問 おおすみ障害者就業・生活支援センター

きつと前進すると思います。

このように、雇用定着のノウハウは

多く企業が増えれば、障がい者雇用は

ますます前進すると思います。

先進事例として挙げられている有限会

社鹿屋電子工業は、障がいのある方への

面談を経営者夫婦自らが丁寧に行ってい

ます。また株式会社笑仁翹も、家族との

連携を図り、本人の様子の変化等を共有

し合える関係を構築されるなど、独自の

フォローを行っていると言えます。



センターが置かれている
鹿屋市社会福祉会館

誰もが人の役に立ち 働く喜びを — おおすみ障害者就業・生活支援センター —

鹿屋市社会福祉会館(向江町)内にある「おおすみ障害者就業・生活支援センター」(以下、センター)は、平成20年7月に鹿児島県内で2つ目のセンターとして設置されました。センターの就業支援相談員・宮内奈緒子さんにお話を伺いました。

センターは、本人の得意なことや障がい特性に合わせた仕事を一緒に探します。面接に同行したり、職場見学・体験も実施しており、雇用が決まった後も、必要に応じて、仕事を続けるための支援を行っています。また、健康管理や経済面に関するアドバイスなど、生活に係る支援も行っています。

電子部品の簡易加工や検査を行う有限会社鹿屋電子工業(寿7丁目)では、約90人の従業員が働いており、そのうち、身体障がい者2人、知的障がい者1人、精神障がい者2人の、計5人の障がい者が働いています。障がい者の法定雇用率は50人に1人とされているため、この人数はそれを大きく上回るものです。

障がい者雇用を推進する同社代表取締役の瀬戸口摩耶さんの話は、障がい者を理解しようという思いと、障がい者雇用についての強い信念が感じられます。

成24年から鹿屋養護学校の実習生を受け入れたのが、そもそものきっかけです。受け入れる前までは、『実習生はそんなに仕事はできないのでは?』と思っていました。思っていた以上に仕事ができる方もいて、興味を持ちました。

そこで、毎年9月に商工会議所で開かれている『鹿屋・大隅地区障害者就職面接会』に参加してみようと思ったのです。平成26年11月に採用した精神障がいのある方は、この面接会で出会いました。もちろん、面接だけで採用を判断するのは難しかったので、おおすみ障害者就業・生活支援センターの雇用体験事業を活用し、1週間ほど体験入社してもらいました。この体験入社での仕事ぶりや本人の強い意欲が採用の決め手となりました。

平成27年4月に採用した知的障がいのある方は、牧之原養護学校の実習生として受け入れ、卒業後に入社しました。製造の現場は、決められたことを繰り返す作業。手順を明確にすれば、障がいのある人も必ずできます。あくまで外から見た印象ですが、働きぶりもほかの従業員と変わりません。だから、『この人

が障がいを持っている』と、ひと目では分からないと思います。もちろん面談も大事です。面談を重ねることによって、本音を知ることができ、対応の改善に役立てることが出来ます。ただ従業員が接し方を理解し切れず、『知的障がいがあるから、こまめではできないのではないか』と、勝手にプレッシャーをかけてしまうこともあります。周囲が限界を決め付けるのはよくありません。もしかしたら本人は『もつと』というんなどにチャレンジしてみたい』と思っているかもしれないからです。

企業の成長のために、いい人材を多く集めたいという思いがあります。その一環として、今後も面接会には参加し、障がいの有無に関わらず、働く意欲があるのであれば、ぜひ一緒に働きたいと思っています。成長する機会を与え、本人の可能性を広げることが企業の役目。これからは障がい者雇用を推進していきたいですね」

つまり、まずは現場実習を通して、企業の皆さんに知的障がい者を知ってもらうこと。これがきっかけで、雇用につながっているケースが多くあります。

就職した生徒たちのほとんどが離職せず定着しています。これも企業の皆さんの理解が進んでいる証拠。障がい者雇用への理解がもつと進むためにも、企業等での現場実習がさらに広がればいいと思います。

知的障がいは、見た目では分かりにくいので、イメージがでず抵抗感を抱く方が多いのも実情。このため、職員が企業に飛び込みで説明に伺い、現場実習に協力いただいています。

まずは知ってもらいたい！
本校には知的障がいや肢体不自由のある児童生徒が通っています。知的障がいのある生徒には、教育の環境として、中学部では職場体験、高等部では企業等での現場実習を行います。

鹿屋養護学校
高等部進路指導主任
宮脇 義博さん

INTERVIEW



鹿屋養護学校
高等部進路指導主任
宮脇 義博さん



総務・人事を担当する瀬戸口さんの妻・幸代さん(中央)も良く理解者

より大事な定着支援
企業の皆さんには、なるべく実習を通して、雇用を検討していただきたいと思っています。実習をすることでお互いのことが良く分かり、本人、企業どちらも安心して就職へ進むことができます。また、就職がゴールではなく、働き続けられることが大事です。本人や企業が困ったなど感じた時に適切なフォローを行うことで、安定した職業生活につながられます。それをサポートするのもセンターの役目です。

センターが置かれている
鹿屋市社会福祉会館

センターは、本人の得意なことや障がい特性に合わせた仕事を一緒に探します。面接に同行したり、職場見学・体験も実施しており、雇用が決まった後も、必要に応じて、仕事を続けるための支援を行っています。また、健康管理や経済面に関するアドバイスなど、生活に係る支援も行っています。

センターは、本人の得意なことや障がい特性に合わせた仕事を一緒に探します。面接に同行したり、職場見学・体験も実施しており、雇用が決まった後も、必要に応じて、仕事を続けるための支援を行っています。また、健康管理や経済面に関するアドバイスなど、生活に係る支援も行っています。

センターは、本人の得意なことや障がい特性に合わせた仕事を一緒に探します。面接に同行したり、職場見学・体験も実施しており、雇用が決まった後も、必要に応じて、仕事を続けるための支援を行っています。また、健康管理や経済面に関するアドバイスなど、生活に係る支援も行っています。

センターは、本人の得意なことや障がい特性に合わせた仕事を一緒に探します。面接に同行したり、職場見学・体験も実施しており、雇用が決まった後も、必要に応じて、仕事を続けるための支援を行っています。また、健康管理や経済面に関するアドバイスなど、生活に係る支援も行っています。